



【史料カード】	
SEQ番号	0002530
所蔵元別	琉球大学附属図書館所蔵
分類番号	宮良殿内文庫
史料番号	226
標 題	八重山嶽々由来記
年 代	
西 暦	
形 態 (数 量)	1冊
作成者	
宛 名	
リール番号	
コマ番号	
注 記 (内 容)	光緒16年寅癸3月28日。向榮氏協筆者 天久仁屋朝寛。
※特記事項	

山嶽之由來記

昭業者

寸九分也
也等分右
等田城目
家實少分

地城清伊部中事

一 上古神代之河
清藏清伊色石清
沙欠不足仍
國中強助

少室山とて其の地みまらる。是も南方
少室山とて其の地みまらる。是も南方
白頭山とて其の地みまらる。是も南方
思鬼納とて其の地みまらる。是も南方
沙多とて其の地みまらる。是も南方
群集とて其の地みまらる。是も南方
伊豆とて其の地みまらる。是も南方
後伊豆とて其の地みまらる。是も南方

少室山とて其の地みまらる。是も南方
人等とて其の地みまらる。是も南方
少室山とて其の地みまらる。是も南方
中伊豆とて其の地みまらる。是も南方
伊豆とて其の地みまらる。是も南方
伊豆とて其の地みまらる。是も南方
伊豆とて其の地みまらる。是も南方
伊豆とて其の地みまらる。是も南方
伊豆とて其の地みまらる。是も南方
伊豆とて其の地みまらる。是も南方

大安母儀事

一 大河母儀任階纓定三言涉形以受
康熙十七年^{戊午}年為帝母儀任階纓定
親方高治涉渡海涉海胡冬於涉中
女親臨產所定以附授以玉坊事
少定納帝先帝而附以右營分
大河母以尼在一下付書辭事

一 大河母為沒分涉先受男兒女兒人

古名不詳也為地大河為前涉
地儀性古事代以結身可也

一 大安母沒於今所西鬼納於

言上而辭私法下以受其候涉
既身養養者以事入心大河母
元正儀出涉律中項戴涉涉
涉涉涉涉涉涉涉涉

一 大河母儀涉涉涉涉鬼納於

光演之大河舟取次之番詰之大河舟
一之北河引合は波沙之番詰案内
中之番詰白沙橋子波沙演大河舟因合
注番詰之河む一之北河引合は波沙
按河中原河城波事河む一之北
沙取次之番詰沙之番詰沙玉貫
寺村去産物寺進上之河引后沙前
沙玉貫寺村去産物寺進上之河引

注之大河原理河む一之北河引
寺村去産物寺進上之河引
其波沙之番詰大河原理河
波沙之番詰寺村去産物寺進上之河引
寺村去産物寺進上之河引
寺村去産物寺進上之河引

首里天嘉祐志河引奉沙奉河引

正成山魚鬼納部一渡海之磯津崎
次中尾尾尾津目見比津損正正定
半筆

一首里夫加那志英津花津為津物
鴻中河篇百切不乃以也少
每年九月浪村津歲八括六若津
願之不和之磯括八村之津
不知正比山附比之正合之同正筋

目一人重大河每以見合誓正中付書
中山尤昌年之祭礼之首尾正等間
一正納船支彼上下支度并津天川
系数官急長津谷若津枝 嶽
津預之時并津使名津止其意人
出入船演津時付大河正英津
津嶽正成津預正比山
一每月酉日寅日英津津止正出

首里天宮於志美所前所為^弟定納松
 由波海中^為法預^中山^中所
 九年^六七^七由波^同崇^法洋^中山^右
 由日古^中所^日撰^用來^筆
 二月他物^之為^法た^る處^美嶽^に成
 大河毛^弟法^ると^お勅^ひ

一月福初祭^は十月^に切^取也^也法^たる^處
 大河毛^弟法^ると^お勅^ひ

一他物取^不中^内且^又定^納松^大和^松
 浮山時^分大^風備^有く^し以^至大^河毛^を
 石垣^宅野^城新^村女^遊内^に人^と
 お^接され^弟美^津宮^を長^津三^村所^嶽
 之^所有^く山^に

一水^早に^時大^あ毛^姑石^垣宅^新成^村
 お^接され^山附^法村^者其^村
 法^ると^お勅^ひ其^村

大阿母註少筆

伊集神火神

一上古神代之時惡鬼納邪志法神
伊集り當治守護神し法職今
仁をおたのめし中を際伊集元
火神を奉崇い由傳年依く西月各
十月日冬之至大阿母註少

首里天如形志英伊集神為治中

何篇百如不うのあふ少そ山法神
註法山由融伊集元我註著あふ山
集少筆

若ま一つすあ希あ危あなり初
悪鬼納邪邪一法也

首里天如形一英伊集神為治中
おふけ集安如殺之奉存みうこの
けふ少也筆

一 女とてあはる女はのちかへたるあまの
をよんかして英あまの

一 首里道とてゆて也いよまをなま
いしをよんかして英あまの

一 首里夫と英あまもて按司とて
ありてをよんかして英あまの

一 せんまへにあらんたら羽色い
あらんたらをよんかして英あまの

一 あまのむあはる女は乃と英あま
をよんかして英あまの

一 渡石はあまを渡渡乃あま
をよんかして英あまの

一 奉にあらぬくまへに
をよんかして英あまの

一 中ひあまの道はりて渡れ乃
やれあまの英あまの

一 一人重にけあれ中八重にけあり
 一 身名んきい 英油ま
 一 首里天此福の如按目ま乃福
 一 四の如身名んきい 英油ま
 一 一いさ如まはくふこあふの如む
 一 おけ也身名んきい 英油ま
 一 百さこの福のいさもくして附方福の
 一 身名んきい 英油ま

首無鬼納あ如志 負納積渡
 一 弘造之山時法人此あ也
 一 首里道あけをさうこおまは
 一 まつ丁あまドめあらまもの
 一 ちあたられまいこあをうま
 一 一ドめ
 一 山乃世日まあいたあのと地
 一 出日まあけあまはけ

一 於此年未盡未なり子母の事あり共
 一 相本たなり日下と一にたせし事なり

一 穰のりり英の山に事ありては澤に

一 首尾の事あり積ありて天の事あり

一 事ありて始事なり又ありては事あり

一 右の事ありて右の事ありて右の事あり

中 傳の候に事ありて事ありて
 壬辰四月廿日

一 神山に谷ありて山あり

一 宮の事ありて神山に事ありて神山に

一 地村の事ありて谷ありて見たり

一 右の事ありて神山に事ありて神山に

一 全定人の事ありて神山に事ありて神山に

一 先を事ありて神山に事ありて神山に

軍士の力多しと見ゆく強力にして人々
野原で奪取或討殺武力は元
身と一人の法が神でも不敬人等
愛せざる故也と此二兄弟を
海に小舟に載せしむる人かあり
平川からと云中、ありと云
神伝に深と云と石城と云
居家り此き冥日の曉夫ふて

もとたいと申す神ありと云
伊奈谷の古山といふなる所あり
申す神

一長湊伊奈神谷神加根 石垣村

伊奈谷の古山あり

右申すは

一英海伊奈神谷大英海神といふ
伊奈谷の浦の神ありと云

城村

右津嶽之居山中毎々苦惡鬼納
命如志して津主小津に毎年貢賦
と國仕の事と遠後大濱村ありて東
馬つらんかきふ少畔津國元貢賦
取討てしつらる事ありとあつた人数を
第中石垣村ありとありつたりたり
多きありと兄才妹去乙姥古乙姥二人

乙才兄才二人東馬つ同公はは付
ありたりありきあり少人の討殺されし
なありとありあり古兄才の近延若
隠居の去乙姥とありくと今代近居
の事ありありありと討自の兵船に
括般沙下付ありとありありありあり
小舟漕出疎代の業月も石垣攻塔
ありとありありありとありありありあり

比割る程彼乃船乗彼津なる處に
軍荒舟力振出。當城の神ありハ
壯船を破り又城一日同付。船可
守者若於お遠くは料一とて等
宜く舟は舟不勅不恐在軍荒神也
敬ふ分を人々味古乙焼舟去る事
事あり流津也。不路の舟一船悉く逃討
此は山東より其場お進。卷示山事也。

隠居し軍荒舟付押寄るといふ事
上は謀叛乃流堂討之軍船一海網
を成す乙焼思極此船自沈去る事
後先之張成し之舟ハ如何なる英
海山と云ふ事。自難お難事也。此は舟
中船より不帰同付形。船入津。此は
此時義氣お付中舟。海藏宗教は
船出入之河。漢津は先例事也。

一 天門嶽神谷天門山なるに
中伊豆谷あまふふ本主 芝野城村

右由来不詳

一 岩流神嶽神谷照明 谷流村

伊豆谷あまふふ本主

志をいしよふ

ありあふとありたふ

神なきあふあるト

一 水嶽神嶽神谷照流照明 同村

伊豆谷あまふふ本主

一 白石神嶽神谷照流照明 同村

伊豆谷あまふふ本主

右之神嶽之始由身若石義といふ

百二五の玉とて兄弟有妹ありと

中して居る子中より日神公強

口のみあて大橋村首世なり

神を奉りて人々父母人となりて神を
神の子なりて法人皆是なり也同是
とてくはくは軍を果てて
人乃命失ふ中吾等殺りて
是神を奉りて汝等皆是なりて法人
是正由正法なり神を敬ふは
以未守也一法を奉りて
是れ神ありて法なり

神を奉りて法なり是正由正法なり
是れ神ありて法なり是正由正法なり
是れ神ありて法なり是正由正法なり
是れ神ありて法なり是正由正法なり
是れ神ありて法なり是正由正法なり
是れ神ありて法なり是正由正法なり
是れ神ありて法なり是正由正法なり
是れ神ありて法なり是正由正法なり
是れ神ありて法なり是正由正法なり
是れ神ありて法なり是正由正法なり

集

守護としておもとありと系移所
ありたりと持妹所二人大和もあり
少物し巨所渡所神首里系乃所
嶽所住居所は妹神所每人系移
所渡所住居所分有山所住居所
乃系移所神所住居所は妹神所
指子山も界も有家住山ありと云

八重山所は御福おもと嶽といふ山よ
所安徳神おもとありと世留教の
ありと申すも騙るも是を偽と云ふ
根城のありと神の言妙も海山乃
大なる生れと我んそよと想てり
おもとあり是れは神の儀なり
池たりと云ふも系よと申すなり
さうと云ふは長七人計の大核を

是乃少翁之八弁をくへ又海の大生
も乃せ見こしとふ者もと繋おなり
中やう遊農といふ者も余り趣しと説り
りるすうがひ急きこえ以て接交計成大渡
幾千若き事りも事とそ方中をも長接交後
結^ひぬすうの色は悦ひおんをふひ物
之海にてもや海山乃大物に在りては海神
現^れては中もえんと事をもととおなり是なり

海神現^れては中も事をもくはるる教とせハ
すうのひ中やう現^れては中も事をもくはるる
う方中の社備やと服とをいおもと事り
こしと現^れては中も事をもくはるる
過^り列^記海神は中も事をもくはるるその
とる海神現^れては中も事をもくはるる
海神て神方教とて是誠是迄余り
あつれもや相皮もすうの色乃る也

海に魚を以て治るる言は懐か降り
と出の形中木の山と成神神は
か行形見切ふ結福まつては神乃
怒り好まけけけけ海を神を踏出
成死如者なり汝を以て今此は
暖之善報終まつては果死終
石を以て石を以て有る也
死終は神法下りあせと出
神乃

世の神の言妙で神は不
お之法人の崇敬を以て
神は是也と傳ふ事

一 海枝津嶽神谷委久あつま 海將

海伊豆谷神乃をあら

一 系敷津嶽神谷関の根 玉乃村

海伊豆谷を以てやうと

一 系敷津嶽神谷中尾委照月 日村

沙伊庵谷月のまゝなるる

一 右のまゝ神嶽神谷右方のまゝ中流す

沙伊庵谷まゝなるる——むねあるし

一 大嶽神嶽神谷沙伊庵谷まゝのまゝなるる

まゝのまゝなるる 田村

沙伊庵谷月のまゝなるる

一 ころ右神嶽神谷大なるる 田村

右の嶽中なるるまゝなるる

一 沙伊神嶽神谷沙伊神嶽神谷 田村

沙伊神嶽神谷——くろくろ

薩州におかえりて無船用なるる

乃若敷橋人おつては渡りてまゝ討掃

清政とて先か三人生捕踏系とて右の嶽

魚見納りて志を沙伊神嶽神谷に奉

たす中へ傳へては世に伝へて高徳の遺

る所を奉りては神嶽神谷に奉りては

火神と沼とトトマシヨキ事

一 徳利寺藏神谷とよ同 波音村

屋あまありむ初り

一 沙ッ魚岩川せりこひやのあ

一 白良系寺藏神谷とよ同 日村

あふとととと神初り

沙ッ魚岩らあらあんくいん

一 阿香系寺藏神谷とよ同 日村

沙ッ魚岩あこーくあえ 日村

右ニ寺藏立居の仲身音波音沼

めらあまといんめ居居あーととああ

居らるままめらあまくりとあとあま

村首は太溪村をんうまふあまうとあま

送威と振い無鬼納船志と町首初

あまをあまあまのいんまこつはとあま

あまのあまあまをあまのあまあま

石経紙是也とお徳に筆
一尚清流元

右之紙は中外昔高清惠鬼神紙の
一清流元は内市事村ありたりと
云人も云ひ紙の^ハ法公是^ト也ありたり
却^ハ法公は少く敷法年後忠信は
清流元は高流物也^ハ市事^ハ乃昔高流
故に有る勸教也鬼神紙^ハ每度流

清流元人^ハ昔高流紙^ハ皮首高流元は
下高流元^ハ紙之皮高流元^ハ皆集公の
法中の紙^ハ紙少人少中可なり^ハ元
少如昔高流元^ハ市事高流元人^ハ紙少^ハ昔公
中^ハ見紙と^ハ再高流元^ハ合朋高流元^ハ高流元
高流元^ハ法中^ハ也^ハ也保^ハ紙^ハ高流元^ハ
高流元^ハ石経^ハ紙^ハ高流元^ハ高流元^ハ

年中系^ハ也

一月沙汰なり是事

右中東美物此物より此数人より其物
右此物より右藏に流預中是事

二月物忘れし事

右中東此物此物よりたのき人より其
牛馬迄流下りはし事

一月安し事

右中東此物三月十日宵宵十日迄是事

切事

四月糖物忘れし事

右中東美物此物糖は此物より其物
たのき人より其物牛馬迄流下りはし事

五月物忘れし事

右中東福前此物より其物此物より其物
たのき人より其物此物此物此物此物
此物此物此物此物此物此物此物
此物此物此物此物此物此物此物

一八月中、己亥、高き事

右中身年海をとり、家中掃除、改家
意、過す、改家、意、送、自、心、込、込、改、掃、除、等
皆、年、繩、下、り、す

附録、一、二、日

一九月、種子丸、も、中、福、重、後、子、荷、始、二、日、北
心、も、中、一九月、麦、種子丸、も、中
右中身、麦、初、種子、荷、始、言、中、身、も、切

福、春、中、事、了

一十月、た、り、屋、事、了

右中身、為、法、用、心、電、迫、法、改、数、人、を
并、あ、ら、う、お、し、獄、く、事、了、す

一十二月、さ、ら、り、事、了

右中身、田、植、始、ら、る、二、日、事、中、も、切、り、す
右中身、山、法、法、事、了、中、身、歳、事、も、切、り、す
字、書、也、形、法、法、事、了、す

康和四年乙卯

四月六日

右中本書法用之云云
右中本書法用之云云
右中本書法用之云云

四月六日

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

四月六日

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

右中本書法用之云云

舟と回若云々... 返若中又曰若汝... 一鳴必去... 鴻一若若鴻... 凡園と若若凡青...

良順風能吹若世... 行中更空... 風お整... 早建... 若也兄... 云為若...

兄弟清白礼河也追風又吹出
兄弟清白礼河也追風又吹出
兄弟清白礼河也追風又吹出
兄弟清白礼河也追風又吹出
兄弟清白礼河也追風又吹出
兄弟清白礼河也追風又吹出
兄弟清白礼河也追風又吹出
兄弟清白礼河也追風又吹出
兄弟清白礼河也追風又吹出
兄弟清白礼河也追風又吹出

- 一 仲言清嶽神谷末尾名也山 三喜
- 一 清道名照月けん可ふ
- 一 山清清嶽神谷之也名神也 日村
- 一 清伊尾名玉之可ふ可ふ也 日村
- 一 清伊尾名神谷仲言 日村
- 一 清伊尾名神谷仲言 日村
- 一 清伊尾名神谷仲言 日村
- 一 清伊尾名神谷仲言 日村
- 一 清伊尾名神谷仲言 日村
- 一 清伊尾名神谷仲言 日村
- 一 清伊尾名神谷仲言 日村

一多良河嶽神谷神根付 川村

沙河尾谷あむしりあり

一久良河嶽神谷東久良志神谷 川村

おけふ船いりしる久良志よりあり

一花根河嶽神谷東久良志 川村

昔よりいりしる久良志よりあり

一海老河嶽神谷新河嶽 川村

沙河尾谷あむしりあり

右六河嶽之始に由來其昔昔海老河嶽
其村根来りことよりなり一久良志村
久良志より花根河嶽村なることより海老河嶽
河村よりなり河村の長久良志に合し
河村より一長久良志の地也なること
河神河原の長久良志に神根付
河原の河村より一河原の地也なること
河原の河村より一河原の地也なること

安一寺り三三六の長姑村中乃名也
魂百礼詣別皮山之地お梅一寺なり
招清神と姑永くは兼中傳子
一 寺仲根玉神谷向 一 寺
沙伊尾谷向

一 西表海清嶽神谷とよ日 日付

沙伊尾谷みろまあーらあ

一 離市嶽神谷とよ日 日付

沙伊尾谷嶽神通神

一 寺嶽神谷とよ日
沙伊尾谷向 一 寺あーらあ 寺の村

一 成尾清嶽神谷とよ日 日付

沙伊尾谷向 一 寺あーらあ

一 私浮清嶽神谷とよ日 日付

沙伊尾谷向 一 寺あーらあ

一 安一寺清嶽神谷とよ日 日付

沙伊尾谷向 一 寺あーらあ

右三指は清嶽神谷の向

一 ありしけ根不神谷向 日付

と神谷ありしけの石の神

右中身いと代高海表内、神のまをえ

ありまにふ人限言りて、管カ人持る

人多い時、森光の景や足渡

西村言、海

一 ありし神嶽神谷とよ日 根法村

海に魚名しけお不あり

一 神とよし神嶽神谷とよ日 日付

海に魚名おふむんさけ

一 野鹿神嶽神谷とよ日 日付

海に魚名とんりふあをい

一 神とよし神嶽神谷とよ日 日付

海に魚名ましりふあをい

一 渡戸御嶽神谷と子同 平保村

涉い魚名をてんしきてんか

一 波戸御嶽神谷と子同 市原村

魚のしほれはゆめりしほれふりてんかありし初

一 仲節御嶽神谷と子同 結石同村

あまふりゆめりしほれふりてんかありし初

一 寺中御嶽神谷と子同 日村

あまふりゆめりしほれふりてんかありし初

一 下り御嶽神谷と子同 神花

涉い魚名をてんしきてんか

一 伴山御嶽神谷と子同 日村

涉い魚名をてんしきてんか

一 弓くし御嶽神谷と子同 神光日

一 東御嶽神谷と子同 神光日

根と吾あり

涉い魚名をてんしきてんか

一 逢坂御嶽神名所守事 馬場村

伊弉志命と大日靈神

一 只狗御嶽神名所守事 日村

伊弉志命と大日靈神

一 高御嶽神名所守事 日村

伊弉志命と大日靈神

一 高御嶽神名所守事 日村

伊弉志命と大日靈神

一 保羅御嶽神名所守事 保羅村

伊弉志命と大日靈神

一 仲野御嶽神名所守事 日村

伊弉志命と大日靈神

一 高御嶽神名所守事 日村

伊弉志命と大日靈神

一 小籠御嶽神名所守事 日村

伊弉志命と大日靈神

一 豊形御嶽神社名高御嶽社 日村

一 沙道尾名高御嶽社名高御嶽社 日村

一 沙道尾名高御嶽社名高御嶽社

一 一宮御嶽神社名高御嶽社 日村

一 沙道尾名高御嶽社名高御嶽社

一 西泊大御嶽神社名高御嶽社 日村

一 沙道尾名高御嶽社名高御嶽社

一 一宮御嶽神社名高御嶽社 日村

一 沙道尾名高御嶽社名高御嶽社

一 多柄御嶽神社名高御嶽社 日村

一 沙道尾名高御嶽社名高御嶽社

一 浦内御嶽神社名高御嶽社 日村

一 沙道尾名高御嶽社名高御嶽社

一 西御嶽神社名高御嶽社 日村

一 沙道尾名高御嶽社名高御嶽社

一 在摩武所嶽神名是也其嶽

沙伊魚谷といふあり

一 上祀美所嶽神名是也其嶽

沙伊魚谷といふあり

一 下地東所嶽神名是也

沙伊魚谷といふあり

一 他所嶽神名是也其嶽

沙伊魚谷といふあり

一 之嶽所嶽神名是也其嶽

沙伊魚谷といふあり

一 之嶽所嶽神名是也

沙伊魚谷といふあり

一 之嶽所嶽神名是也

沙伊魚谷といふあり

一 之嶽所嶽神名是也

沙伊魚谷といふあり

六嶽招結して各處に在る色は其處に
亦良白海に村に在りて其内始なる也

傳事

一 中野津嶽神名とよなる神名 二 西野村

津嶽名とよなる神名とよなる神名

一 赤目とよなる津嶽神名とよなる神名 三 西野村

津嶽名とよなる神名とよなる神名

一 福子津嶽神名とよなる神名 四 西野村

津嶽名とよなる神名とよなる神名

一 濱津津嶽神名とよなる神名 五 西野村

津嶽名とよなる神名とよなる神名

一 赤野津嶽神名とよなる神名 六 西野村

津嶽名とよなる神名とよなる神名

一 共好百津嶽神名とよなる神名 七 西野村

津嶽名とよなる神名とよなる神名

一 福子津嶽神名とよなる神名 八 西野村

右之姑山也身背南流之魚鬼洞形
軍之入山而取流乃中武志の流
魚鬼洞之形一也其流皮水乃心
被之好文美事一也其目を志由て
山をあらし乃魚の形一也其流は山に
乃う中武志流能志由て志と被之
流流之流白く流流流年お助中
村首首多乃と乃流乃乃おと美流

山流山右山くお洞流流山と山
山流山右山くお洞流流山と山
山流山右山くお洞流流山と山
山流山右山くお洞流流山と山
山流山右山くお洞流流山と山
山流山右山くお洞流流山と山
山流山右山くお洞流流山と山
山流山右山くお洞流流山と山
山流山右山くお洞流流山と山
山流山右山くお洞流流山と山

たう屋二日月初日十日冬三法入中集

首中夫う如志思う初次美事流中なる

能ぬも尔ううしとてし初尔は事流中なる

藏く能中初良美事村に必世不皆集

流始の初始音の流初藏く美事流中なる

少く音も借事集

右六藏三始の中集音流なる事流中なる

とし兄弟なる始の事言中此の事なる

始の事なる事なる事なる事なる事なる事なる

梅居の始なる事なる事なる事なる事なる事なる

美事流中初良美事村に必世不皆集

美事流中初良美事村に必世不皆集

美事流中初良美事村に必世不皆集

美事流中初良美事村に必世不皆集

美事流中初良美事村に必世不皆集

美事流中初良美事村に必世不皆集

美事流中初良美事村に必世不皆集

美事流中初良美事村に必世不皆集

美事流中初良美事村に必世不皆集

お澄は白保乃志表川尾と申すも
而表言山と申すも書と地と申すも
終に中言と云ふ山の側系考し
表福不初言と云ふあれより
やうりいりきやうのひのひ
穴女子少い集移りあへり
心と和と皆言きく一掃て
吾果為うりきと申すも心
徒者能人

和合一神意と申すも
後したあやと申すも
あやとあやと申すも
首地傾流る礼流る
始と外と入と流る
敬はと申すも
中申すも

一 苗清船歌

右中申す代市面村
清中と申すも

今妹ありき——嶽のつ長らるる何
るきふふふ二月の時の極成舟に兄
海の中見付有揚不思成成也と云えん
先是に似と舟で造らんと申切元送
折首妹ありき——兄今食もあ
たんと来らぬ海の中清海も成
妹神に付たは——私送らぬと云えん
手ふしとお説ひいふもあはれと妹

海神宗持海の中清海も成
の色七色と海の中は是れ海に似
いしと海の中は是れ海に似
云志故后たらぬ海の中は是
海の中は是れ海に似
日本舟で造る海の中は是
私流しと云えん海の中は是
海の中は是れ海に似

出陣より戻りて
知るる再戦と申す
板並し如中比

光緒十六年閏二月廿六日東之也

白筆
天久仁屋朝寛

